

事後評価シート

| | |
|----------------|--|
| 調査研究課題名 | インフラ・公共サービスの効率的な地域管理に関する研究 |
| 担 当 者 | 客員研究官 小谷将之 客員研究官 土屋依子 客員研究官 朝日ちさと 前研究官 山腰司 |
| ① 当初目標と目標達成度 | <p>少子高齢化・人口減少が進み、財政環境が厳しくなるなかで、国民生活を支える都市施設やインフラおよび公共サービスをどのように維持・更新していくかは重要な課題である。本調査研究は、わが国において市町村等の地域単位で管理されるインフラおよび公共サービスについて、財政効率的な維持・管理のあり方を検討することを目的としている。</p> <p>本調査研究ではインフラ管理のあり方としてドイツのシュタットベルケに着目し、制度基盤、文化的背景、組織構造や効率性を高める工夫、経営課題などを 10 のシュタットベルケ、4 自治体、3 関連団体へのヒアリング及び現地視察を通じて実施したほか、文献調査により情報収集した。またわが国地域インフラの維持・管理への適用を念頭に、適用にあたって検討すべき諸課題を論点としてまとめた。本調査を通じてシュタットベルケが地域インフラ・公共サービスを持続的に運営する損失補填の仕組みや自治体出資の公的企業でありながら経営効率性を高めている監督と執行の分離構造を明らかにできたほか、日独の連結納税制度や会社法といった制度上の差異等、横展開にあたって留意すべきポイントをまとめることができた。したがって、当初の目標を達成できたものと考えている。</p> |
| ② 調査研究内容の妥当性 | <p>シュタットベルケスキームが国内で注目を集める中、多様なシュタットベルケを体系的に調査し整理した事例が少なかったこと、またわが国でシュタットベルケスキームを応用する場合に注意すべき点をドイツの先行事例に基づいて整理できたことは、今後地方公共団体が同様のスキームの導入を検討する際のチェック項目としても活用できるものであり、有意義であると考えられる。</p> |
| ③ 調査研究の仕組みの妥当性 | <p>調査研究を進める過程で有識者にヒアリングを実施し意見をいただいたほか、平成 31 年度は、有識者と自治体職員で構成される研究会を設置し、事例研究や対応の検討を重ねながら取りまとめを進めた。</p> |
| ④ 成果と活用 | <p>研究成果を報告書の形に取り纏め、当研究所のホームページで広く公表する。</p> |
| ⑤ その他 | <p>・調査研究内容を令和元年 5 月、令和 2 年 5 月に開催された国土交通政策研究所研究発表会で報告したほか、外部セミナー等で講演を行った。</p> |